

連体詞「こういう」「こうした」の使い分け

近 悠 美*

(e-mail: kon_yuumi@yahoo.co.jp)

目 次

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1. はじめに | 4. 「こういう」「こうした」の使い分け |
| 2. 先行研究 | 4. 1. 「こうした」が許容されない場合 |
| 2. 1. 金水・木村・田窪(1989) | 4. 2. 「こういう」が許容されない場合 |
| 2. 2. 杉山・劉(2013) | 4. 3. 両者の係り先に着目した場合 |
| 2. 3. 伊豆原(2001) | 4. 4. 両者が許容される場合 |
| 2. 4. 先行研究の問題点 | 5. まとめ |
| 3. 調査対象と分析方法 | |
-

1. はじめに

本稿では、連体詞「こういう」¹⁾「こうした」²⁾の使い分けについて考察する。庵・高梨・中西・山田(2001)(以下、庵他(2001))は、名詞を修飾する指示詞に

* 檀国大学校 外国語大学 日本語科 助教授

- 1) 「こういう」「こういった」は機能的には同じであると考えられることから、本稿では「こういう」「こういった」は区別せずに考察することとする。
- 2) 「こうした」の品詞については、辞書によって以下のように異なっている。
- ① こう-した^{かう}【此-・斯-】〔連体〕(副詞「こう」に、動詞「する」の連用形「し」と、助動詞「た」が付いて一語化したもの)このような。こんな。こういう。こういった。
(『日本国語大辞典』2001:298、点線は筆者による)
- ② こう-した【▼斯うした】カウー〔連語〕《前に述べた事柄を受けて、連体詞的に》このような。こんな。
(『明鏡国語辞典』2002:547、点線は筆者による)
- しかし、『明鏡国語辞典』(2002)には「連体詞的に」とあり、また、「こうした」は名詞に係っていることから、本稿では、「こうした」の品詞は「連体詞」とする。

は、「この」類、「こんな」類、「こういう」類³⁾などがあるとしている。そして、「こういう」類には「こうした」も含まれているとし、両者は機能的には同じものであるとしている。⁴⁾

また、『日本国語大辞典』(2001)には、「こういう」「こうした」について以下のような記述がある。

- ① こう-いう^{かういふ}【斯言】〔連体〕(副詞「こう」に、動詞「言う」が付いて一語化した語)このような。こんな。こうした。⁵⁾

(『日本国語大辞典』2001:192)

- ② こう-した^{かうし}【此-ス-】〔連体〕(副詞「こう」に、動詞「する」の連用形「し」と、助動詞「た」が付いて一語化したもの)このような。こんな。こういう。こういった。

(『日本国語大辞典』2001:298)

以上では、「こういう」「こうした」の意味・用法は同じであるとみなされている。確かに、両者は次の(1)のように、置き換えが可能であることが多い。

- (1) 比較級という言葉でまとめたのですがつまり「より」とか「もっと」「更に」という(〇こういう/〇こうした)表現が、あー、(CSJ)⁶⁾

3) 庵他(2001)は、「この」類は「この/その/あの」をまとめたもの、「こんな」類は「こんな/そんな/あんな」をまとめたもの、「こういう」類は「こういう/そういう/ああいう」をまとめたものであるとしている。(庵他2001:11)

4) 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘(2001)『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク, pp.11-12

5) 本稿の例文に記されている「こういう」「こうした」の二重下線、「こういう」「こうした」の指示対象の一重下線、「こういう」「こうした」の係り先の囲み線は、すべて筆者によるものである。

6) CSJとは、国立国語研究所と情報通信機構が開発した『日本語話し言葉コーパス』(Corpus of Spontaneous Japanese) (以下、CSJ)のことである。

なお、CSJは話し言葉のコーパスであるため、例文には以下のようなタグが付いている。

(例) 比較級という言葉でまとめたのですがつまり(M_より)とか(M_もっと)(M_

(1)は、もとは「こういう」が使われている例文である。(1)の場合は、「こうした」に置き換えても許容される。しかし、次の(2)を見ていただきたい。

(2) 飼い主がその犬の個性を理解しようとせず、“犬とは(○こういう/×こ
うした)モノ”というステレオタイプのイメージに縛られたまま、

(BCCWJ)⁷⁾

(2)も、もとは「こういう」が使われている例文である。(2)の場合は、「こうした」に置き換えると許容されない。したがって、「こういう」「こうした」には、何か使い分けがあるのではないかと思われる。

本稿では、コーパスから収集した例文をもとに、「こういう」「こうした」の使い分けを明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究

更に)というこういう表現が(F_ あー) ((1)の改変前、点線は筆者による)
CSJで使用されているタグには、以下のようなものがある。

(F) フィラー、感情表出系感動詞

(D) 言い直し、言い淀み等による語断片

(M) 音や言葉に関するメタ的な引用 (小磯・間淵・西川・斎藤・前川2004: 8)

本稿では、(F) (D)は句読点、(M)は鉤括弧に置き換えた。改変後の例文は、以下のとおりである。

(例) 比較級という言葉でまとめてしまったのですがつまり「より」とか「もっと」「更に」という(○こういう/○こうした)表現が、あー、 (= (1))

⁷⁾ BCCWJとは、国立国語研究所が開発した『KOTONOHA「現代日本語書き言葉均衡コーパス」検索デモンストレーション』(Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese) (以下、BCCWJ)のことである。なお、現在の名称は『KOTONOHA「現代日本語書き言葉均衡コーパス」少納言』である。

2. 1. 金水・木村・田窪(1989)

金水・木村・田窪(1989)(以下、金水他(1989))は、「こういう/そういう/ああいう」(以下、「こういう」)は、「こんな/そんな/あんな」(以下、「こんな」)とよく似た意味で使われるとし、指示対象が複数の場合は、「こういった/そういった/ああいった」(以下、「こういった」)が用いられることがあるとしている。⁸⁾その例文は以下のとおりである。

- (3) 彼は、買った靴は10年以上はき続けたし、食べ物を残して捨てるようなことは決してなかった。 {そんな/そういう/そういった} 小さな節約の積み重ねが、今日の彼の財産を築いたといえる。⁹⁾ (金水他1989: 54)

以上、「こんな」「こういう」「こういった」は、意味・用法が非常によく似ているということが分かる。金水他(1989)は、「こんな」について詳しく述べていることから、本節では「こんな」に関する記述を概観する。

金水他(1989)では、「こんな〈名詞〉」は、「こ」によって指示される物事と同じ性質・特徴を持った〈名詞〉、という意味になるとしている。そして、「こんな」は指示対象と係り先が同一のものではなくても、同じ特徴を持っていればよいとしている。¹⁰⁾その例文は以下のとおりである。

- (4) (犬を見ながら)かわいい犬ですね。私も、こんな犬が飼いたいな。
(金水他1989: 52)

⁸⁾ 金水敏・木村英樹・田窪行則(1989)『日本語文法 セルフマスターシリーズ4 指示詞』くろしお出版. p. 54

⁹⁾ 脚注5)において、本稿では「こういう」「こうした」に二重下線を記すとしたが、「こんな/そんな/あんな」や「こういった/そういった/ああいった」などにも、必要に応じて二重下線を記している。

¹⁰⁾ 金水敏・木村英樹・田窪行則(1989)『日本語文法 セルフマスターシリーズ4 指示詞』くろしお出版. p. 52

(4)の指示対象は「かわいい犬」、係り先は「犬」である。発話者は、指示対象と同じ「かわいい」という特徴を持っている「犬」を飼いたいとしている。なお、以上の意味に関しては、「こういう」「こういった」にも同様のことが言えると思われる。

金水他(1989)は、「こんな」「こういう」「こういった」について述べていたが、それぞれの使い分けについては述べていなかった。しかし、同書は学習者向けに書かれたものであるため、説明が難解になる可能性のある使い分けのルールについては触れなかったのだろう。

2. 2. 杉山・劉(2013)

杉山・劉(2013)(以下、杉山他(2013))は、「コンナ」類と「コウイウ」類¹¹⁾を比較している。

まず、杉山他(2013)は、現場依存性が高い場合は「コンナ」類、現場依存性が低い場合は「コウイウ」類が許容されるとしている。¹²⁾その例文は以下のとおりである。

(5) (ひどいこと言われて)「{そんな/*そういう}！」

(杉山他2013: 108を改変)

(6) あれ、おかしいな。いつもはあのキノコ、{こういう/?こんな} ところに
生えているのに、今年はないな。 (杉山他2013: 109を改変)

11) 杉山他(2013)は、「「こんな・そんな・あんな」をまとめて「コンナ」類、「こういう・そういう・ああいう」をまとめて「コウイウ」類(杉山他2013: 119)」としている。

12) 杉山さやか・劉羈(2013)「日本語と中国語の指示詞の対照研究—「コンナ」類と「コウイウ」類、“這種”類と“這樣的”類を例に一」『日中言語対照研究論集』第15号, 日中言語対照研究会, p. 108

(5)は、実際の現場で発話していることから、「コンナ」類が許容されるとしている。杉山他(2013)は、感嘆文や一語文は現場性が強いと言われる文型であることから、「コンナ」類の方が自然であるとしている。一方、(6)の「ところ」は、目の前にある場所と同じ特徴を持っている場所全体を表していることから、「コウイウ」類が許容されるとしている。杉山他(2013)は、総称・習慣を表す文型は、現場から独立している性質が強いため、「コウイウ」類が許容されるとしている。また、(6)の場合は、「いつも」という副詞が使われていることから、明らかに習慣を表していることが分かるとしている。

次に、杉山他(2013)は、「コンナ」類は特定のものを指し、「コウイウ」類は不特定のものの集合を指しているとしている。¹³⁾その例文は以下のとおりである。

(7) 椎茸大好き！マヨネーズも大好き！ {そんな/*そういう} 私の肉詰めです。

(杉山他2013：110を改変)

(8) (少年野球の監督へのインタビュー)先ほど、ちょっと、子供のほうが熱心だというようなことをおっしゃっていたんですが {そういう/*そんな} 子供というのは、やはりこども自らがやりたいと言ったのでしょうか。

(杉山他2013：110を改変)

(7)は、「私」という特定の人物を指しているため、「コンナ」類が許容されるとしている。一方、(8)は個人ではなく、少年野球に参加している「子供」という不特定の人物の集合を指しているため、「コウイウ」類が許容されるとしている。

そして、杉山他(2013)は、特定のものを指す場合であっても、言語情報が多くなると「コウイウ」類の使用も可能になるとしている。¹⁴⁾その例文は以下のとお

13) 杉山さやか・劉羈(2013)「日本語と中国語の指示詞の対照研究—「コンナ」類と「コウイウ」類、“這種”類と“這樣的”類を例に一」『日中言語対照研究論集』第15号，日中言語対照研究会．p. 110

14) 杉山さやか・劉羈(2013)「日本語と中国語の指示詞の対照研究—「コンナ」類と「コウイウ」類，“這種”類と“這樣的”類を例に一」『日中言語対照研究論集』第15号，日中言語対照研究会．p. 110

りである。

- (9) 東京の西に、日野駅がある。今日は久しぶりにその駅を降りた。大学がいくつかあるものの、あまりにぎわっているとはいえない町である。加えて、東京にも少しずつ押し寄せる師走の寒さが、さらに寂しさを際立たせている。そういう町に、僕は久しぶりに訪れたのである。

(杉山他2013 : 113)

(9)の指示対象は「大学がいくつかあるものの、あまりにぎわっているとはいえない町である。加えて、東京にも少しずつ押し寄せる師走の寒さが、さらに寂しさを際立たせている」、係り先は「町」である。(9)は、「日野」という特定の空間を指示しているが、言語情報が十分に累積されているため、「コウイウ」類の使用も可能になるとしている。

2. 3. 伊豆原(2001)

伊豆原(2001)では、書き言葉的要素の強い独話の資料を1点、話し言葉的要素の強い独話の資料を2点、書き言葉的要素を持ちながらも話し言葉の特徴をも持つ独話の資料を1点の、計4点の資料を用いて、話し言葉的独話と書き言葉的独話での指示詞の機能について考察している。

伊豆原(2001)は、「そういう」を調べた結果、書き言葉的要素の強い独話の資料では「そういう」の出現数が1件のみであったが、話し言葉的要素の強い独話の資料では、一つは19件、もう一つは24件、書き言葉的要素を持ちながらも話し言葉の特徴をも持つ独話の資料では14件であったことを明らかにしている。¹⁵⁾

また、「こう」「そんなとき」「そうやって」など、話し言葉的だと思われる指

語対照研究会. pp. 112-113

15) 伊豆原英子(2001)「指示語から見た話し言葉的独話と書き言葉的独話—独話教育のための基礎的研究(3)—」『愛知学院大学教養部紀要』第48巻第4号, 愛知学院大学. pp. 94-95

示詞¹⁶⁾が話し言葉の要素の強い独話の資料で多く見られたことから、書き言葉の要素の強い独話の資料で見られた「そのためには」「そのことは」「こうした」などの堅い語形と好対照であるとしている。¹⁷⁾

以上のことから、「こういう」は話し言葉で多く使用される指示詞であり、「こうした」は書き言葉で多く使用される指示詞であると思われる。なお、伊豆原(2001)は、「こういう」「こうした」の使い分けを明らかにすることを研究の目的としているわけではない。

2. 4. 先行研究の問題点

以上、「2. 1. 金水・木村・田窪(1989)」から「2. 3. 伊豆原(2001)」において先行研究を概観した結果、「こういう」を調査対象としている先行研究はあったものの、「こうした」を調査対象としている先行研究は、管見の限りでは見当たらなかった。また、「こういう」「こうした」の使い分けに関する先行研究も、管見の限りでは見当たらなかった。

しかし、コーパスから収集した例文には、「こうした」も複数回出現しており、また、「こういう」「こうした」は例文によっては置き換えができない場合もあることから、両者を調査対象とし、使い分けを明らかにする必要がある。

本稿では、「こういう」「こうした」を調査対象とし、両者の使い分けを明らかにすることを目的とする。

16) 遠藤(1988)では、ある資料において発話の際は「そういう」を使っていたが、その発話を文字化する際には「そういった」「そのように」「その種の」と置き換えていたことから、「そういう」は書き言葉にはふさわしくないとの判断が見られるとしている。(遠藤1988: 40)このことから、伊豆原(2001)は、「こういう/そういう/ああいう」は話し言葉的な指示詞であるとしている。

17) 伊豆原英子(2001)「指示語から見た話し言葉的独話と書き言葉的独話—独話教育のための基礎的研究(3)—」『愛知学院大学教養部紀要』第48巻第4号、愛知学院大学. pp. 94-95

3. 調査対象と分析方法

本稿では、近(2013)¹⁸⁾で収集した例文に含まれていた「こういう」「こうした」の例文、全895件を調査対象とした。なお、近(2013)で収集した例文を調査対象とした理由について、最初に「こういう」「こうした」の例文を大量に収集し分析するという方法もあるが、少数の例文を詳しく分析し、そこから使い分けのルールを明らかにした後、そのルールが他の例文にも当てはまるかどうかを確かめるという方法もあるのではないかと考えたためである。そのため、本稿では新たに例文は収集せず、近(2013)で例文を収集した際に含まれていた、「こういう」「こうした」の例文を調査対象とした。

まず「こういう」¹⁹⁾「こうした」の出現数と出現率²⁰⁾は表1のとおりである。CSJでは「こういう」の出現数は694件、出現率は96.9%、「こうした」の出現数は22件、出現率は3.1%であった。一方、BCCWJでは「こういう」の出現数は66件、出現率は36.9%、「こうした」の出現数は113件、出現率は63.1%であった。

表1. 「こういう」「こうした」の出現数と出現率

	こういう		こうした		合計	
	出現数	出現率	出現数	出現率	出現数	出現率
CSJ	694	96.9	22	3.1	716	100.0
BCCWJ	66	36.9	113	63.1	179	100.0
合計	760	84.9	135	15.1	895	100.0

18) 近(2013)では、指示詞「こう」の分類を行なうために、検索条件を「こう」と設定し、例文を収集した。その結果、CSJからは2704件、BCCWJからは321件の例文を収集した。

19) CSJには、「こういった」の例文が151件、「こういう」と「こういった」の区別ができない例文が7件あり、BCCWJには、「こういった」の例文が8件あったが、これらはすべて「こういう」の出現数に含んでいる。また、CSJの「こういう」と「こういった」の区別ができない例文とは、以下のとおりである。

(例) 今は荻窪に住んでんですけども半年ぶりにこう (D い) (F あの) 中野新橋の
とこに行きましたら (CSJ)

20) 出現率(%) = 出現数(件) ÷ 合計数(件)

表 1 を見ると、話し言葉では「こういう」が全体の約 97% を占め、書き言葉では、「こうした」が全体の約 63% を占めていることが分かる。このことから、伊豆原(2001)にもあったように、話し言葉では「こういう」が多く使用され、書き言葉では「こうした」が多く使用されるということが明らかとなった。

次に、「こういう」「こうした」の使い分けの分析方法について説明する。本稿では、例文の「こういう」を「こうした」に、「こうした」を「こういう」に置き換えた際、置き換えても違和感がない場合は許容されると判断し○、置き換えると違和感がある場合は許容されないと判断し×とする。また、×であるとまでは言い難いと判断した場合は△とする。

4. 「こういう」「こうした」の使い分け

4. 1. 「こうした」が許容されない場合

本節では、「こうした」が許容されない場合について考察する。例文は以下のとおりである。

- (10) 飼い主がその犬の個性を理解しようせず、“犬とは(○こういう/×こうした)モノ” というステレオタイプのイメージに縛られたまま、 (= (2))
- (11) 今は親だって子だって、そんなものどうでもいい、自分だけで他人はどうでもいいんだもの。子供なんか邪魔になって放っておくし、親だって気に入らなけりゃ放っておくと、(○こういう/×こうした)式でしょ。

(BCCWJ)

(10) の指示対象は「犬とは」、係り先は「モノ」である。(10) は、指示対象の「犬」と係り先の「モノ」は完全には一致していない。しかし、「こうした」に

置き換えると、指示対象の「犬」と係り先の「モノ」は完全に一致すると受けとられてしまう。そのため、(10)は「こうした」が許容されないのだろう。

(11)の指示対象は「子供なんか邪魔になって放っておくし、親だって気に入らなけりゃ放っておくと」、係り先は「式」である。(11)は、発話者は「式」の内容について話しているが、「こういう式でしょ。」と確認していることから、「式」の内容は発話者の考えであると思われる。したがって、正確な内容であるとは言い難い。しかし、「こうした」に置き換えると、指示対象と係り先は同一であると捉えられてしまう。そのため、「こうした」は許容されないのだろう。

次に、(12)は指示対象がコンテキスト外にある場合の例文である。

(12) 先輩からあなたは(○こういう/×こうした)ところが直ってないとかあなたは(○こういう/×こうした)癖があるとか喋り方がどうだとか (CSJ)

(12)は指示対象がないように思われるが、発話者の直っていない「ところ」や発話者の「癖」は複数想定でき、それらを「こういう」が受け止めていると考えられることから、(12)にも指示対象があると思われる。係り先は、一つ目は「ところ」、二つ目は「癖」である。(12)のように指示対象がコンテキスト外にある場合は、指示対象が複数想定できるが、その内容は曖昧である。そのため、「こうした」は許容されないのだろう。

次の(13)は、係り先がくだけた言い方となっている場合の例文である。

(13) 凄いリアリティー出すっていうそこら辺の匙加減とかが凄いうまいなとか思ってやっば才能って(○こういう/×こうした)もんなんだろうなって (CSJ)

(13)の指示対象は「才能って」、係り先は「もん」である。(13)は、「こういう+係り先」が「こういうもの」ではなく「こういうもん」となっていることか

ら、くだけた言い方であることが分かる。(13)のようなくだけた言い方の場合、「こうした」は許容されないのではないだろうか。

そして、(14)は、指示対象の内容が提案となっている場合の例文である。

- (14) 「だから(○こういう/×こうした)ことにしましょう。あくまでも仮入学として、おたくの娘さんを預かりましょう。うちの学校で半年勉強してもらって、その結果を見て、勉強を続けてもらうかやめてもらうか決めましょう」 (BCCWJ)

(14)の指示対象は「あくまでも仮入学として、おたくの娘さんを預かりましょう。うちの学校で半年勉強してもらって、その結果を見て、勉強を続けてもらうかやめてもらうか決めましょう」、係り先は「こと」である。(14)は、指示対象の前に「こういうことにしましょう」と言っていることから、何かを提案していることが分かる。(14)のような提案の場合、物事が実現するかどうかはまだ分からない段階である。そのため、「こうした」は許容されないのだと思われる。

4. 2. 「こういう」が許容されない場合

本節では、「こういう」が許容されない場合について考察する。例文は以下のとおりである。

- (15) そして、二四年にはベルリン国立歌劇場の第一指揮者に就任することとなった。二十七歳の若さで、はやくも(×こういう/○こうした)ビッグなポストを得るまでになったのである。 (BCCWJ)
- (16) 主要な論点は次のようなものである。第一に、家計や企業の経済行動は長期にわたって安定した傾向を持っている。構造モデルの基本にある経済主体の(中略)背後にある家計の労働供給、企業の雇用行動が不安定であることを意味しないという。(×こういう/○こうした)クラインの主張に

は、 (BCCWJ)

- (17) 日本に一度も住んだことがないというこの青年が大変流暢な日本語を喋る
 のには驚かされました(中略)えー、(×こういう/○こうした)、ん、この
熱心なハンガリー人青年のガイドに会えて (CSJ)

(15)の指示対象は「ベルリン国立歌劇場の第一指揮者」、係り先は「ビッグなポスト」である。「こういう」は、指示対象と同じ特徴を持っていればよいことから、「こういう」に置き換えると「ベルリン国立歌劇場の第一指揮者」と似たポストであると受けとられる可能性がある。しかし、(15)の指示対象は、ある一つのポストに特定されているため、指示対象のポスト自体である必要がある。そのため、「こういう」は許容されないのだろう。

(16)の指示対象は「第一に、家計や企業の経済行動は長期にわたって安定した傾向を持っている。構造モデルの基本にある経済主体の(中略)背後にある家計の労働供給、企業の雇用行動が不安定であることを意味しないと」、係り先は「クラインの主張」である。(16)は、「こういう」に置き換えると「クラインの主張」と似た主張であると受けとられる可能性がある。しかし、(16)は係り先がある一つの物事に特定されており、また、指示対象も具体的であるため「クラインの主張」自体である必要がある。以上の理由により、「こういう」は許容されないのだろう。(17)の指示対象は「日本に一度も住んだことがないこの青年」、係り先は「この熱心なハンガリー人青年のガイド」である。(17)は、「こういう」に置き換えると「ハンガリー人青年のガイド」と同じ特徴を持った人と受けとられる可能性がある。しかし、指示対象も係り先もある特定の人物を表しているため、「ハンガリー人青年のガイド」本人でなければならない。そのため、「こういう」は許容されないのだろう。

また、(15)(16)(17)は、いずれも指示対象と係り先が完全に一致している。このことから、「こういう」は許容されないということが考えられる。

次の(18)(19)は、指示対象も係り先も、ある一つの物事には特定されていない場合の例文である。

(18) ヴィクトリア大学にはなんでも揃っている。診療所、新聞スタンド、ジム、各種運動場、開架式大図書館、ブックセンター、古本屋、コンビニ、パブ、現像屋、ゲームセンター、観光案内切符売り場、コンドーム販売機、夜でも使える金銭CD、映画館、ミニ美術館、二四時間コンピュータ施設、精神や学費のカウンセラー室、セクハラ相談室、駐軍場…。子供を交替でつれてくる夫婦学生がいるところをみると、保育所があるらしい。その代わりに、教授の研究室は小さく、またレストラン、カフェテリアに学生、教授の区別はない。おもしろいと思ったのは、(△こういう/○こうした)施設のスタッフが全員かの勇猛なU S 鉄鋼労組に加入しているというのだ。 (BCCWJ)

(19) 連濁違反より長い傾向があり等価電流双極子の大きさは連濁違反の方が大きい傾向を示しました(△こういう/○こうした)結果は (CSJ)

(18)の指示対象は「診療所、新聞スタンド、ジム、各種運動場、開架式大図書館、ブックセンター、古本屋、コンビニ、パブ、現像屋、ゲームセンター、観光案内切符売り場、コンドーム販売機、夜でも使える金銭CD、映画館、ミニ美術館、二四時間コンピュータ施設、精神や学費のカウンセラー室、セクハラ相談室、駐軍場…。子供を交替でつれてくる夫婦学生がいるところをみると、保育所があるらしい」、係り先は「施設」である。杉山他(2013)では、特定の空間であっても言語情報が累積されていれば「コウイウ」類の使用も可能になるとして²¹⁾

しかし、(18)は、指示対象も係り先もある一つの場所には特定されていないが、

21) 杉山さやか・劉羈(2013)「日本語と中国語の指示詞の対照研究—「コンナ」類と「コウイウ」類、「這種」類と「這樣的」類を例に—」『日中言語対照研究論集』第15号, 日中言語対照研究会. p. 113

「ヴィクトリア大学」という特定の大学にある施設を具体的に挙げていることから、指示対象と係り先が完全に一致していると言える。また、「こういう」は話し言葉で多く使用される指示詞であるとされているが、(18)は書き言葉のコーパスであるBCCWJの例文である。以上の理由から、「こういう」は許容されにくくなると思われる。

(19)の指示対象は「連濁違反より長い傾向があり等価電流双極子の大きさは連濁違反の方が大きい傾向を示しました」、係り先は「結果」である。(19)も、指示対象も係り先もある一つの物事には特定されていないが、ある特定の実験の結果を具体的に述べていることから、指示対象と係り先は完全に一致していると言えるだろう。このことから、「こういう」は許容されにくくなると思われる。

4. 3. 両者の係り先に着目した場合

本節では、「こういう」「こうした」の係り先に着目した場合、両者の係り先にはどのような特徴があるのかということについて考察する。

まず、調査対象である全895件の例文の係り先の出現数を見ていくこととする。

表2. CSJにおける係り先の出現数(上位7位まで)

順位	係り先	出現数		合計
		こういう	こうした	
1	こと	63	2	65
2	もの	57	0	57
3	形	29	0	29
4	の	26	0	26
5	ところ	17	0	17
5	音	9	0	9
7	研究	6	0	6
7	場合	6	0	6
合計		694	22	716

表 3. BCCWJにおける係り先の出現数(上位 7 位まで)

順位	係り先	出現数		合計
		こういう	こうした	
1	こと	8	4	12
2	人	3	0	3
2	状況	0	3	3
2	事態	2	1	3
2	形	2	1	3
2	場合	1	2	3
7	ところ	2	0	2
7	人物	2	0	2
7	男	2	0	2
7	条件	0	2	2
7	現象	0	2	2
7	関係	0	2	2
7	話	1	1	2
合計		66	113	179

以上の表 2 は CSJ、表 3 は BCCWJ で、係り先の出現数の合計が多い方から順に、上位 7 位までを掲載したものである。表 2 と表 3 において、どちらも上位 7 位までを掲載した理由は、表 3 の BCCWJ では、14 位以下の係り先の出現数がすべて 1 件ずつであったためである。なお、表 2 の CSJ には 14 位以下にも複数回出現している係り先があったが、BCCWJ との比較のため、7 位までを掲載することとした。また、表 2 の場合は、係り先を集計する際、例えば「こういう(F うー)形」のように、「こういう」「こうした」と係り先の間には (F) や (D) のタグが含まれていても、「こういう形」と併せて集計した。

表 2 より、出現数が最も多かったのは「こと」で、「こういう」では 63 件、「こうした」では 2 件であった。また、表 3 において、BCCWJ の場合も、出現数が最も多かったのは「こと」であった。「こういう」では 8 件、「こうした」では 4 件であった。

そして、表 2 と表 3 から、次のような特徴が見られた。

1 点目は、両者ともに、係り先は「こと」が最も多かったということである。

「こういう」の場合、「こと」の出現数と出現率は、CSJは63件(9.1%)、BCCWJは8件(12.1%)、「こうした」の場合、「こと」の出現数と出現率は、CSJは2件(9.1%)、BCCWJは4件(3.5%)であった。以上、特に話し言葉の場合では、係り先が「こと」である割合が、全体の約10%であるという結果が得られた。

2点目は、係り先には「こと」「もの」などの形式名詞が多いということである。表2と表3より、係り先の上位7位までのうち、CSJは「こと」「もの」「の」「ところ」「場合」の計5件、BCCWJは「こと」「人」「場合」「ところ」「話」の計5件が形式名詞であった。また、順位を確認すると「こと」はCSJ、BCCWJともに出現数が1位、「もの」はCSJにおいて2位、「人」はBCCWJにおいて2位、「場合」はCSJにおいては7位で、BCCWJにおいては2位、「の」はCSJにおいて4位、「ところ」はCSJにおいては5位で、BCCWJにおいては7位、そして、「話」はBCCWJにおいて7位であった。以上、「こういう」「こうした」の係り先は、形式名詞が多いと言えるのではないだろうか。

次に、CSJとBCCWJの、それぞれの係り先の延べ語数と異なり語数を見ていくこととする。延べ語数と異なり語数の集計結果は、表4のとおりである。

表4. 係り先の延べ語数と異なり語数

	延べ語数				異なり語数			
	こういう		こうした		こういう		こうした	
	出現数	出現率	出現数	出現率	出現数	出現率	出現数	出現率
CSJ	694	100.0	22	100.0	411	59.2	19	86.4
BCCWJ	66	100.0	113	100.0	52	78.8	104	92.0
合計	760	100.0	135	100.0	463	60.9	123	91.1

CSJでは、「こういう」の延べ語数は694件(100.0%)で、異なり語数は411件(59.2%)、「こうした」の延べ語数は22件(100.0%)で、異なり語数は19件(86.4%)であった。一方、BCCWJでは、「こういう」の延べ語数は66件(100.0%)で、異なり語数は52件(78.8%)、「こうした」の延べ語数は113件(100.0%)で、異なり語数

は104件(92.0%)であった。

さらに、異なり語数の出現率を比較すると、CSJでは、「こういう」の出現率が59.2%、「こうした」の出現率が86.4%であった。一方、BCCWJでは、「こういう」の出現率が78.8%、「こうした」の出現率が92.0%であった。

表4より、話し言葉、書き言葉にかかわらず、ともに「こうした」の方が異なり語数が多いことが窺えた。このことから、「こうした」の係り先には、ある特定の物事がくることが多いと言えるだろう。

4. 4. 両者が許容される場合

以上、「4. 1. 「こうした」が許容されない場合」から「4. 3. 両者の係り先に着目した場合」において、「こういう」は指示対象と係り先が一致していないときに用いる用法であり、「こうした」は指示対象と係り先が完全に一致しているときに用いる用法であることが分かる。

そこで、この用法記述の適切さを、両者が許容される例文において確かめてみる。その例文は以下のとおりである。

- (20) 比較級という言葉でまとめてしまったのですがつまり「より」とか「もっと」「更に」という(○こういう/○こうした)表現が、あー、
(=(1))
- (21) ヒマワリなんか食べられないもんですから、あの、割ってあげたりとかしなきゃいけない(○こういう/○こうした)、あの、細かい世話は (CSJ)
- (22) 私は今まで五時に起きる中学生とか、原選手ファンのOLとか、ニューファミリーの姿を見て、(○こういう/○こうした)人たちも外野席で楽しんでいるのだなと思っていたのに、
(BCCWJ)
- (23) 手が足りなくなって徴用令を施行したとき、徴用されるのはいやだと言う人が出てくる。(○こういう/○こうした)人はどの国でもいるはずであり、
(BCCWJ)
- (24) 同席した客のなかに、食材や料理のウンチクを自慢気に語る人を見るが、

(○こういう/○こうした)人は料理人の持つ知識を上回っても、下回っても好かれない。 (BCCWJ)

(20)の指示対象は「「より」とか「もっと」「更に」という」、係り先は「表現」である。(21)の指示対象は「ヒマワリなんか食べられないもんですから、あの、割ってあげたりとかしなきゃいけないくて」、係り先は「細かい世話」である。(22)の指示対象は「五時に起きる中学生とか、原選手ファンのOLとか、ニューファミリー」、係り先は「人たち」である。(23)の指示対象は「徴用されるのはいやだと言う人」、係り先は「人」である。(24)の指示対象は「食材や料理のウンチクを自慢気に語る人」、係り先は「人」である。(20)から(24)の例文では、「こういう」「こうした」の両者が許容される。

しかし、両者が許容される場合であっても、以下のような使い分けがあると思われる。

- ①「こういう」の場合は、指示対象は他にもまだあると捉えられ、「こうした」の場合は、指示対象は提示された物事のみであると捉えられる。
- ②「こういう」の場合は、「こういう+係り先」の特徴・性質を挙げていると捉えられ、「こうした」の場合は、「こうした+係り先」自体であると捉えられる。

①は(20)(21)(22)に関する使い分けであり、②は(23)(24)に関する使い分けである。

ここからは、使い分けの①②を順に確かめていくこととする。まず、①に関する例文は以下のとおりである。

(25) 比較級という言葉でまとめてしまったのですがつまり「より」とか「もっと」「更に」という(○こういう/○こうした)表現が、あー、

(=(1))

(25)の場合、「こういう」では、比較級の言葉が「より」「もっと」「更に」の他にもあると捉えられ、「こうした」では、比較級の言葉が「より」「もっと」「更に」のみであると捉えられるだろう。

(26) ヒマワリなんか食べられないもんですから、あの、割ってあげたりとかしなきゃいけなくて(○こういう/○こうした)、あの、細かい世話は
(=(21))

(26)の場合、「こういう」では、指示対象の他にも細かい世話をしていると捉えられ、「こうした」では、細かい世話の内容は指示対象のみであると捉えられると思われる。

(27) 私は今まで五時に起きる中学生とか、原選手ファンのOLとか、ニューファミリーの姿を見て、(○こういう/○こうした)人たちも外野席で楽しんでるのだなと思っていたのに、
(=(22))

(27)の場合、「こういう」では、指示対象の他にも複数の方がいると捉えられ、「こうした」では、指示対象で挙げられている人のみがいると捉えられるだろう。また、(25)(26)(27)は、指示対象に並列助詞の「とか」が含まれていることから、指示対象は提示された物事のみである可能性もあれば、他にもある可能性も考えられる。そのため、両者が許容されるのではないかと考えられる。

次に、使い分けの②を確かめる。②に関する例文は以下のとおりである。

(28) 手が足りなくなつて徴用令を施行したとき、徴用されるのはいやだと言う人が出てくる。(○こういう/○こうした)人はどの国でもいるはずであり、
(=(23))

(28)の場合、「こういう」では、ある人物の特徴を挙げていると捉えられ、

「こうした」では、指示対象の人物自身であると捉えられるだろう。

- (29) 同席した客のなかに、食材や料理のウンチクを自慢気に語る人を見るが、
(○こういう/○こうした)人は料理人の持つ知識を上回っても、下回って
も好かれない。 (= (24))

(29)の場合も、(28)と同様に、「こういう」では、ある人物の特徴を挙げていると捉えられ、「こうした」では、指示対象の人物自身であると捉えられるだろう。

5. まとめ

本稿では、「こういう」「こうした」の使い分けについて考察を行なった。考察の結果から分かったことは、以下のとおりである。

①「こういう」

- ・指示対象と係り先が一致していないときに用いる。
- ・「こういう＋係り先」は、指示対象の特徴や性質、内容を表す。
- ・係り先には形式名詞がくることが多く、話し言葉においては、係り先全体の約10%が「こと」であった。
- ・指示対象がコンテキスト外にある場合も許容され、また、くだけた言い方の場合も許容されるため、話し言葉に多く出現したのであろう。

②「こうした」

- ・指示対象と係り先が完全に一致しているときに用いる。
- ・指示対象と係り先の両者、または、どちらか一方が特定の物事であるときに用いる。
- ・係り先の異なり語数の出現率が約90%であることから、係り先にはある特定の

物事がくることが多いと思われる。

- ・ 指示対象がコンテキスト内にあるため指示対象の特定がしやすいこと、また、くだけた言い方の場合は許容されないため、書き言葉に多く出現したのであろう。

今後の課題について、まずは「こういう」「こうした」の例文を新たに収集、分析し、「こういう」「こうした」の使い分けを、より明確にしていきたい。

次に、「こういう」「こうした」だけでなく、「この」「こんな」「このような」「こういった」などの名詞を修飾する指示詞の使い分けについても考察していきたい。

そして、「こういう」「こうした」などの「コ系指示詞」だけでなく、「そういう/ああいう」や「そうした/ああした」といった「ソ系指示詞」「ア系指示詞」も調査対象とし、名詞を修飾する指示詞の意味・用法について明らかにしていきたい。

【参考文献】

- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘(2001)『中級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク. pp. 11-12
- 伊豆原英子(2001)「指示詞から見た話し言葉的独話と書き言葉的独話—独話教育のための基礎的研究(3)—」『愛知学院大学教養部紀要』第48巻第4号, 愛知学院大学. pp. 91-102
- 遠藤織枝(1988)「話しことばと書きことば—その使い分けの基準を考える—」『日本語学』第7巻第3号, 明治書院. pp. 27-42
- 北原保雄編(2002)『明鏡国語辞典』大修館書店. p. 547
- 金水敏・木村英樹・田窪行則(1989)『日本語文法 セルフマスターシリーズ4 指示詞』くろしお出版. p. 52, p. 54

小磯花絵・間淵洋子・西川賢哉・斎藤美紀・前川喜久雄(2004)『転記テキストの仕様Version1.0』独立行政法人国立国語研究所・独立行政法人情報通信研究機構. pp. 1-17²²⁾

近悠美(2013)「指示詞「こう」の分類について」『韓国日本文化学会第45回国際学術大会』韓国日本文化学会. pp. 58-62

杉山さやか・劉羈(2013)「日本語と中国語の指示詞の対照研究—「コンナ」類と「コウイウ」類、“這種”類と“這樣的”類を例に一」『日中言語対照研究論集』第15号, 日中言語対照研究会. pp. 106-121

日本国語大辞典第二版編集委員会小学館国語辞典編集部(2001)『日本国語大辞典第二版』第五巻, 小学館. p. 192、p. 298

【コーパス】

独立行政法人国立国語研究所・独立行政法人情報通信研究機構(2004)『日本語話し言葉コーパス』第1刷

独立行政法人国立国語研究所『KOTONOHA「現代日本語書き言葉均衡コーパス」検索デモンストレーション』〈<http://www.ninjal.ac.jp/kotonoha>〉(検索日: 2011年4月8日)

【謝辞】

本稿は、韓国日本研究総連合会2014年度第3回国際学術大会および韓国日本文化学会2014年度第46回春季国際学術大会における口頭発表『連体詞「こういう」「こうした」の使い分け』の内容にもとづいて、執筆したものである。口頭発表の際には、多くの先生方から貴重なご意見をいただいた。また、本誌の匿名査読者の方々からも、貴重なご助言をいただいた。記して感謝申し上げたい。

22) 小磯・間淵・西川・斎藤・前川(2004)は、CSJに格納されている文書である。

要 旨

本稿は、連体詞「こういう」「こうした」の使い分けについて述べたものである。学術書や辞書では、「こういう」「こうした」の意味・用法は同じであるとしているが、例文によっては置き換えられない場合もあるため、両者には使い分けがあると考えた。

考察の結果、「こういう」は、指示対象と係り先が一致していないときに用いる用法であることが分かった。次に、係り先には「こと」「もの」などの形式名詞が多いことが明らかとなった。そして、指示対象がコンテキスト外にある場合も、くだけた言い方の場合も許容されることから、話し言葉に多く出現する指示詞であることが分かった。

一方、「こうした」は、指示対象と係り先が完全に一致しているときに用いる用法であることが分かった。次に、指示対象と係り先の両者、あるいは、どちらか一方が特定の物事である場合に許容されることが明らかとなった。そして、指示対象がコンテキスト内にあるため指示対象の特定がしやすいこと、また、くだけた言い方の場合は許容されないことから、書き言葉に多く出現する指示詞であることが分かった。

最後に、両者が許容される場合の使い分けについて、「こういう」の場合は、指示対象の他にもあると捉えられ、「こうした」の場合は、指示対象のみであると捉えられること、また、「こういう+係り先」の場合は、指示対象の特徴や性質、内容を表し、「こうした+係り先」の場合は、指示対象自体を表す、の2点が明らかとなった。

キーワード：「こういう」、「こうした」、「指示対象」、「係り先」、
「話し言葉」、「書き言葉」、「形式名詞」

투 고 : 2014. 8. 31
1차 심사 : 2014. 9. 13
2차 심사 : 2014. 10. 4